

＜書 評＞

Clyde A. Edwards 著

加倉井周一 訳（東京都補装具研究所）

靴型装具製作マニュアル

大川嗣雄（横浜市）

最近、日常の生活で使うもののなかに外国製の物を買った方が良い品物はあるだろうかという議論になった。結論はナチュラルチーズと靴ぐらいではないかという議論になった。義肢・装具の分野でも諸外国に劣らない製品が出来るようになった。しかし、靴型装具となると問題である。今まで我が国では、靴型装具の処方やチェック・アウトについては多くの文献が出版されており中には非常に優れた物も見ることが出来る。ところが、製作法に関する文献は皆無といってよかった。

今回、幸いなことに都補装具研の

加倉井所長が、西ドイツの教科書である「靴型装具のすべて」の翻訳につづいて、アメリカの Edwards 氏の著書「靴型装具製作マニュアル」を訳して出版された。

この本は、第1章の整形外科矯正靴総論から始まり、第9章注文靴の製作手技で終わり、巻末に整形外科矯正靴材料ならびに製作工具入手先リスト一覧が付いている。

本全体を通じて、豊富なイラストと簡潔ではあるが大変分かりやすい説明が付いている。また、我が国では義肢・装具のいろいろな物にもちいられるようになったとはいうもの

の、靴型装具には未だあまり使われていない発泡ポリエチレン剤等の新しい材料の用い方が述べられている。

さらに、訳文は大変よく日本語にこなれており、いわゆる“訳文”のような違和感がなく読みやすい。また、文中のインチも全て cm が併記されており、さらに多くの訳注によって材料などの商品名が分かるようになっている。訳者の労を多としたい。しかし、巻末のリストが日本の物であったらと思うのである。

最後に、このような大切ではあるが、地味な本を出版されたパンフィックスサプライの熱意に謝意を述べるとともに、全ての関係者に一読を奨めたい。

（B 5，頁154，1984，¥ 3,500，
パンフィックスサプライ（株）刊）